

第 46 回学会大会開催にあたって JSLRS 第 80 号、巻頭言 Nov. 2016

— “長い学会活動”, “海外の高等機関での専門的な学び”, “実生活からの学びと実践”
を通して見える化できた「レクリエーションの本質 (The Essence of Recreation)」 —

日本レジャー・レクリエーション学会 (JSLRS)

第 8 代会長 鈴木 秀 雄

(関東学院大学名誉教授, 学術博士 Ph. D.)

第 46 回学会大会を早稲田大学所沢キャンパスにおいて開催する運びとなりました。本学会事務局長であり今学会大会の実行委員長でもある前橋 明早稲田大学教授/医学博士のご協力とリーダーシップにより実現することができました。同実行委員長はじめ大会開会に向け精力的に関わってくださいました多くの関係者の皆さんに心からの感謝とお礼を申し上げます。

今回は大会テーマを「子どものレクリエーション」とし、基調講演は「レクリエーションの本質」が企画され、小職がその任を務めさせていただきこととなりました。また、特別講演では「子どものスポーツ・レクリエーション」(新潟県 片貝医院長/医学博士 根元 忠氏)並びに「園庭遊具の創造 ～恐竜遊具と子どもたち～」(株式会社ジャクエツ環境事業取締役 吉田 薫氏)、さらにシンポジウムでは、前回(第 45 回学会大会)では「地域が生き活きするレジャー・レクリエーション(以下「L&R」と略す。)の可能性」でしたが、本年は「子どもがいきいきするレクリエーション」をテーマに各シンポジスト[「子どものレクリエーション～野外活動の魅力～」(菅原成臣氏);「早寝・早起き・朝ごはん運動の立ち上げとレクリエーション」(尾木文次郎氏);「親子レクリエーションのための運動遊び」(松坂仁美氏);「子どものレクリエーションのための靴教育(シューエデュケーション)」(吉村眞由美氏)]の発題と共にコーディネーター(本学会副会長坂口正治東洋大学教授)のリードにより活発に討議されます。

さて、紙数に限りがあるなかですがお許しをいただき、小生の学会への関わりについて今回の基調講演との関連で述べさせていただきます。学会が発足し、その翌年、当時、名誉会長をされていましたが三笠宮崇仁親王殿下も参加され第 2 回学会大会が、日本都市センター(東京)で 1972 年 11 月 10 日に開催されました。この学会大会での研究発表(「ゲームに対するイメージの比較考察 ～SD法によるグループの比較～」)を皮切りに、学会活動に積極的に参画することとなりました。その後の自身の L&R の学びと学会活動を時系列的に記せば、昭和 59(1984)年から理事;昭和 63(1988)年から常任理事;平成 6(1994)年から 3 期 6 年の理事長;平成 12(2000)年から 3 期 6 年の副会長;平成 18(2006)年から 4 期 11 年の会長;と計 33 年間の役員、45 年間に及ぶ 1) 学会員としての活動をさせていただき、4 年間の米国フロリダ州立大学大学院留学における 2) L&R 専攻の学びから L&R がどのような関係にあり、また、その本質は何なのかを 3) 自身の実生活からの学びと実践 (Recreology & Recreationist)を通して解き明かし、“見える化”することができてきた感があります。「レクリエーションの本質 (The Essence of Recreation)」として理解すべき内容・事象・関連用語の詳細は、この第 46 回学会大会の基調講演で、会員の皆さんとその枠組(外延と内包)などを共有できることを意図したいと思っています。

大会テーマのもと、基調講演、特別講演、シンポジウム、ワークショップ、加えて会員相互の交流が盛んになされる学会期間中の研究発表、そして懇親会等でも積極的な議論を交わしていただけたらと願っています。多くの学会員、関係者、興味・関心をお持ちの皆さんのご参加を早稲田大学所沢キャンパスでお待ちしております。